

やすらぎ

No.59

医療法人社団 誠林会

【発行人】 理事長 林 健太郎

介護老人保健施設 やすらぎ

〒933-0954 高岡市美幸町1丁目1-53

TEL (0766) 27-3838 FAX (0766) 27-3839

http://seirinkai.jp

【編集】 やすらぎ編集委員会

印刷 小間印刷(株) 高・利屋町3



▲納涼祭

誠林会の基本理念は、毎朝心新たに復唱している。愈々研鑽し、地域の医療・保健・福祉に貢献したい。

医療法人社団 誠林会

基本理念

- 一、私たちは、医療福祉を通して、奉仕の精神で、地域社会の発展に貢献します。
- 一、私たちは、高度な医療福祉サービスを追求し、知識の習得、技術の向上に努めます。
- 一、私たちは、真心を尽くす触れ合いの中から、ゆるぎない信頼関係を築きます。
- 一、私たちは、人命の尊厳と人間愛を深く尊重し、倫理をもって職務に専念します。



▲吹奏楽部

高岡西部中学校



▲弥栄節



▲利用者の作業療法で完成



▲高岡第一幼稚園

近年、思うこと

医療法人社団 誠林会 会長 林 松夫



日本人の精神文化

最近の世界情勢は、学問の素晴らしい発展の中で一触即発の世界大戦勃発の危険をはらみながら、自国の利益を優先し人道上の問題を避けて、経済上の争いを続けている。その中で日本人は自然を畏敬し、絆、縁を大切にし、怒(ゆるす)を重んじ、節度を重んじる礼儀正しい精神文化をもつ国民であります。

欧米人の商談

欧米人は昔から異民族との戦いを繰り返してきた。交渉においても相手に対する不信任感が前提にあり、簡単にはイエスといわない。それに対し日本人は、陸続きのない島国に育ち、家族的なルールと文化を育ててきた。

日本は怒(ゆるす)を重んじるあまり、交渉や意見交換の場では、共感部分の一部でもあると賛意を示す(不確かな賛成)。したがって仕事上でも変更がよくある不確かな賛意であり、商談が成立しないことがあるという。

欧米人は100%の了解か、決裂しか

ない。十分な説明了解を取ったうえで
の合意であり、確実な商談が成立する。

ウシオ電機会長牛尾治朗氏は、「日本人はイエスから始まる民族、欧米人はノーから始まる民族」といつている。欧米人は100%賛成でないと、ノー、それからバットと始まる(確かな賛成)。外国では沈黙は金でない。説明して完全な理解、了解を得ることこそ金であると思っている。

足るを知る

最近、テレビを見ると、食べ物健康を維持するもののはずが、大食い競争、エネルギー過剰摂取、高価、肥満、健康破壊、残飯、残渣による環境破壊と、昔からの「足るを知る」ことを全く忘れて、無駄な消費がどんどんと増えている。食物のみに限らず、衣、食、住ともにある。

戦争を体験し、衣食住すべて極限まで不足した時代を生きた我々からすると、資源に限りのある地球を考え、今の消費のスピードでは、人類の未来は暗い。ケニアのノーベル賞受賞者、ワシントン・マタイさんの「モツタイナイ」の言葉が身にしみます。

読書習慣を

1979年、アメリカの社会学者エズラ・ヴォーゲルは、ジャパン・アズ・ナンバーワンの中で日本の高度経済成長の源泉は「学習意欲」と「読書習慣」であると分析している。

しかし、先日発表された全国大学生

協連合会の調査によると1日の読書時間が「ゼロ」と答えた学生は53.1%と半数を超えており、本の行間を読むことを知らない人が多いことを示唆している。(行間を読むとは。意味や解説、類語。文章には直接表現されていない筆者の真意をくみとる。メモ書きをすることももある)

21世紀の展望

世界的な経営学者ピーター・ドラッカーは、21世紀に重要視される唯一のスキルは、新しいものを学ぶスキルである。それ以外はすべて時間とともに腐れていく。今後平均寿命が百歳に近づくにつれ、50年以上働かねば社会が成り立たない。75歳までは働かないといけない。

またIT(Information Technology)情報技術の進歩は目覚ましく、IoT(Information of Things)モノのインターネット(パソコンやサーバーといったコンピューター以外の多種多様な「モノ」)にインターネットが接続され、相互に情報をやり取りすることが発達

医療法人社団 誠林会
平成30年6月～12月

12月10日付

◆新規採用
医療法人社団誠林会
総務部長(兼)老健やすらぎ
事務局長 森 忠夫
参事 石原 友信
9月3日

◆10年表彰
介護老人保健施設やすらぎ
支援相談員副主任 高野 真悟
介護職員 伊藤 綾乃
地域包括支援センター
社会福祉士 西川由紀子

しAI(Artificial Intelligence)人工知能の進歩は目を見張るものがある。将棋の羽生善治さんが言っているように人工知能が人間の脳をしのごsingularity(技術的特異点)が何時来るのか、その後はどうなるのか。

宇宙では太陽系が属する天の川銀河には、太陽系と同じような恒星が、千億も二千億もあり、いまま拡大を続けておる宇宙の絶えざる変化の中で地球はどうなるのか、地球をどうして守るか興味はつきないが、神のみぞ知ることと言えようか。

ボランティアに感謝します。

期間 平成30年6月～11月

団体

- ボランティア西条 シーツ交換 納涼祭 遠足 やすらぎ祭
- トマトの会 手芸教室 利用者との交流
- はおか保育園 誕生会
- 高岡第一幼稚園 誕生会
- 西条小学校 利用者との交流
- 高岡西部中学校 民謡弥栄節 学校祭招待 JRC部
- 高岡西高校JRC部 利用者との交流
- 富山県高岡看護専門学校 納涼祭
- 尚栄会 誕生会
- 華の会 誕生会
- 豊笑会 やすらぎ祭
- 越乃民謡会 誕生会
- ファイケアオアロハ 敬老会
- サヨフラスクール 慰問

個人

- 麻生達兼 法話 フルード
- 宮浦早苗 竹内静枝 民謡指導(リハビリ)
- 荒井典恵 書道教室 (敬称略)

やすらぎ祭

11月18日、「施設利用者の心に寄りそい、ともに歩もう」をテーマに、やすらぎ祭が開催されました。

午前、2階レクリエーションホール特設舞台では、先ず恒例の高岡西部中学校の出し物です。吹奏楽部にとって、一、二年生は初めての舞台です。張切って、力強い、そして美しい音色、懐かしい曲の演奏もありました。また、金屋のおりんを使い、ペーベンさんの第九を生徒と利用者の皆さんの演奏があり、「私にできるかしら」と言いながらも、とても楽しそうでした。地元で伝わる伝統ある「弥栄節」の踊りでは、舞台の上に中学生らしい初々しい姿がありました。次は、利用者と職員が練習してきた「カルメン」の楽器演奏と「紅葉」

の歌と演奏がありました。利用者も職員が一体となった力強い演奏に大きな拍手がわきました。

豊笑会の方による、「麦屋節・お座敷小唄」、やすらぎ舞踊愛好会による、「美子の真室川音頭」があり、いずれも凛とした姿に「素敵だねえ」の声

が聞かれました。一階では、介護の日フェスティバルで受賞した職員やそして新人紹介ポスター、余暇委員作成のやすらぎ新聞などが貼り出されました。職員の生け花や利用者・職員の作品も展示され興味をひきました。

介護用品コーナーもあり、バザー、魚釣りゲームを楽しんだり、喫茶コーナーではうどん・ぜんざい・飲み物があり、「美味しいねえ」「おかわり



▲やすらぎ祭テーマ



▲利用者と職員による合奏



▲豊笑会



(横井)

高岡西部中学校学校祭

10月14日、高岡西部中学校の学校祭に利用者3名が招待されました。到着すると、先生と生徒さんの温かい出迎えがありました。案内で体育館へ行きました。そこでは箏演奏、弥栄節を見学しました。喫茶コーナーへ行き、多くの生徒さんに囲まれ昔話などの会話に、真剣に聞き入れてくれ、触れ合いを深めました。作品展示を鑑賞しました。そこでは、「難しかったけ、

立派やねえ」など、びっくりしておられましたが、輪投げゲームも行っており、利用者の方は真剣に、ゲームに参加されました。

「今年も多くの来賓の方、家族に来ていただき、やすらぎ祭は、年々充実しているように思います。」

(南嶋)



最後は、玄関前で生徒さんと記念撮影をしました。車に乗っても「ありがとうございます」など最後まで、手を振って温かく見送ってもらいました。笑顔で「たのしかった」「また来たいねえ」と楽しそうでした。高岡西部中学校の先生方、生徒さん、本当に有難うございました。

(横井)

納涼祭

第23回となる今年の誠林会納涼祭は、8月4日に開催されました。当日は、全国的な猛暑の影響で過去の雨天時を除いて以来、暑さによる入所者の体調に配慮し、やすらぎ屋内2階ホールで行われました。

林健太郎理事長の挨拶に始まり、催しは、入所者によるカラオケ・新人職員による余興、やすらぎ舞踊愛好会とイケメン男子による踊りなど楽しく工夫をこらした出しものがあり、入所者はじめ皆さん笑顔で拍手し、大変盛り上がりました。

模擬店では、焼きそば、どんど焼き、飲み物が販売され、模擬店担当として屋外で焼きそばを焼いたり、売物を2階販売売場へ汗をかきながら搬



▲七夕、高く天の川

入するなど頑張りました。多くのご家族の来所もあり、売れいきもよく嬉しかったです。

屋内での開催は久しぶりということもあり、担当者をはじめ他の職員が、準備に追われ大変でした。花火と獅子舞は都合上出来ませんでした。大盛況のうち無事終えました。

納涼祭に協力してもらった職員、ボランティアの方々に、感謝いたします。(神代)



▲舞踊愛好会と男子の踊り



▲模擬店がんばる

10月 誕生会

10月19日、誕生会がありました。10月生まれの方は7名おられ、職員や他の利用者の皆さんでお祝いしました。今回の催しは、高岡第一幼稚園の年中さんの園児による踊りと歌でした。かわいらしい踊りと歌をみて、利用者の方々は喜んでおられ、園児のかわいい姿に目がくぎづけでした。



▲高岡第一幼稚園児の贈物

そして今月誕生日を迎えられた方に、園児からプレゼントが贈られました。誕生者じゃない利用者全員にも、首飾りを用意してくれていて、一人ひとりの首にかけてくれました。首にかけてもらった利用者の皆さんの笑顔が、とても素敵でした。最後に園児の皆さんが「おじいちゃんおばあちゃん、元気でいてくださいね」と言ってくれ、利用者の方々は嬉しそうに大きな拍手で見送りました。(川上)

9月 誕生会

9月の誕生会は、19日に行われました。今回は、6名の利用者の方のお祝いをしました。最初に長谷田施設長の挨拶から始まり、皆さんでハッピーバースデーの曲を歌いました。それが終わると会食で、ケーキを頂きました。

今月の催しは、毎年参加してもらっている、筏井豊華城代表の「華の会」の皆さんによる民謡でした。「華の会」は、多方面で活躍されており、今年は創立42年目だそうです。今回は「鯨ヶ沢勘句」や新舞踊の「阿修羅海峡」など七曲披露して頂きました。その曲ごとに丁寧でわかりやすい解説がありました。

ハッピーロックと言う踊りは、ロック調の踊りで分かりやすく入所者やスタッフも一緒に踊りました。最後に、「元気でいられるためにハッピーハッピー」と言葉があり、とてもうれしく思いました。誕生者や入所者の方もとても喜んでおられ、楽しい誕生会となりました。(二上)



▲華の会

秋の遠足

10月3日、道の駅雨晴に遠足へ行きました。当日は天候に恵まれ汗ばむほどでした。

道の駅に着いて、先ず正面玄関で記念写真を撮りました。そして付きそいの職員やボランティアの方と一緒に自由に散策しました。展望デッキから海を眺めておられた利用者からは、「潮風が気持ちいいね」や「海が一望できてすごいね」の声が聞かれました。

散策した後は、海がよく見える多目的ホールで、昼食の弁当を食べました。利用者からは、「たけのこご飯おいしいね」の声がありました。

帰りは、海沿いの道を少し遠回りし、施設に戻りました。今回の遠足は、秋晴れのもと、素晴らしい景色も見ることができました。(多喜)



▲道の駅雨晴

敬老会

9月12日、敬老会が行われました。やすらぎには、米寿の方が8名、百歳の方が2名、入所・通所されています。人生のおめでたい節目の年を祝して、長谷田施設長より一人ひとりに声を掛けながら、賞状と記念品が贈呈されました。表彰された方々は大変喜ばれ、笑顔で受け取っておられました。

会食では、長寿を願って、利用者全員で桃色饅頭を美味しくいただきました。催しは、ファイ・ケアオ・アロハ・サヨ・フラスクールの華麗なフラダンスです。色鮮やかな衣装と女性らしいしなやかな動き、笑顔に魅了され、心も華やかな気持ちになりました。利用者はリズムに合わせて手をたたいたり、身体で拍子をとりながら、とても楽しい時間を過ごされました。

この日は米寿と百歳の方をお祝いしましたが、利用者の一人ひとりが元気で、敬老の日を迎えられたことを嬉しく思います。これからも利用者の皆さんが、元気に楽しく笑顔で過ごされるようお手伝いさせていただきます。(今村)



▲華麗なフラダンス

職員研修

学習委員会 島谷 麻希

やすらぎでは、毎月全職員を対象とした研修会を行っています。今年度は特に褥瘡対策に力を入れています。

褥瘡とは、寝たきりなどによって、体重で圧迫されている場所の血流が悪くなったり滞ることによって、皮膚の一部が赤い色味をおびたり、ただれたり、傷ができてしまうことをいいます。

研修会では、できやすい部位、できやすい人を改めて確認しました。褥瘡対策で一番大切なのは、職員同士の協力であり、医師、看護師、介護職員、栄養士、リハビリなどの多職種が、利用者一人ひとりに対して褥瘡のリスクを共通認識として持つことが重要です。

このように毎月さまざまなテーマの講義を受け、時には、外部から講師の先生を招くこともあります。職員自身の意識を高め、技術力を磨き、知識を深めながら日々の業務に励んでいます。

受賞

介護老人保健施設やすらぎ

竹之内映子介護福祉士

11月11日、富山県介護フェスティバルで、竹之内介護職員が、富山県福祉人材確保対策会議会長宮田伸朗氏より、表彰されました。

受賞趣旨は「利用者本位の視点に立ち、後進の指導、職員のチームワークに貢献、福祉介護職場の社会的評価の向上に寄与した」と、するものです。

やすらぎ祭では、利用者80名と職員による合同楽器演奏を指揮し、拍手かっさいを受けました。

トマトの会のやすらぎ祭作品は、入所者と一緒に作業、指導し完成しました。



▲トマトの会と入所者の作品

憧れの包括職員です

西郷 静香

年を経た新人ですみません。入職までに過去の広報「やすらぎ」を拝読させていただきました。

第54号の巻頭言に、会長の人間的成長を求め続けるが記載されています。失敗する人12項目で、「うわあ私だ」と思い当たり、成功する人12項目は、「へー」と実行しなければなあと、自分を見つめ直す機会となりました。特に忘れたくない事項として、「常に人間的成長を求め続ける人」を挙げたいです。

自分の人生も集大成に差しかかり、何をしたいか、と問う日々に出した答えは、「地域の人とふれあっていたい」です。

偶然の中の必然だったのでしようか、うちの包括へ来ん、とお誘いを受けた時、自分は管理者として勤務中だったので、無理と一度は出した結論を、毎日振り返りました。

皆さんに教えていただき、自分のよき集大成となるよう成長していく所存です。

高齢者における薬物有害事象について

介護老人保健施設やすらぎ 施設長 長谷田 泰男

薬漬け医療が問題となった時期がありました。最近ではあまり聞かれませんが、今でも多剤を処方されている方が多く見受けられます。特に高齢者は長期にわたり内服されている事が多く、有害事象を引き起こしやすいことが指摘されています。有害事象とは薬による直接的な副作用のほか、間接的影響や中断による有害作用なども含まれています。

高齢者は、循環器系（高血圧、虚血性心疾患等）、脳神経系（脳梗塞・脳出血後遺症、認知症等）、消化器系（胃潰瘍、逆流性食道炎等）、内分泌系（糖尿病、骨粗鬆症等）、腎・泌尿器系（排尿障害、前立腺肥大等）などの慢性疾患をお持ちの方が多く、呼吸器系や骨折等の運動器系疾患が加わると投薬は更に多くなります。ある有名病院の調べでは、高齢者の緊急入院の数は薬剤が原因（後期高齢者では15%超）

であり、誘因として臓器予備能の低下、誤服用、自己中断、多剤長期服用、誤診や漫然投与などが挙げられています。一般的に後期高齢者までの年齢では、薬剤投与による有益度が害を大きく上回るが後期高齢者では、その差が小さくなるといわれています。また6剤以上の投与では、有害事象を起こす頻度が有意に高く、転倒の発生頻度も5剤以上で有意な差がみられることが報告されています。更に要介護高齢者では、管理目標が健常人と異なることも最近報告されています。例えば後期高齢者では、血圧の管理目標は収縮期は150以下、拡張期は90mmHg以下を、虚弱な85歳以上では血圧は高めの方が有利ではないかという考えも出ています。

糖尿病においても認知症の方は低血糖のリスクが高く、また低血糖は認知症の発生リスクになるため、HbA_{1c}や空腹時血糖の目標値の見直しも

始まっています。認知機能を低下させるリスクとして、ベンゾジアゼピン系睡眠導入剤、抗コリン系薬剤、抗うつ剤、抗精神薬等が慎重投与を要する薬剤として挙げられています。

高齢者では薬の説明書に書かれている副作用のみならず、様々な有害事象が発生することがあります。ご本人はもちろんご家族や周囲の人々も、おかしいと感じられた時は、主治医と相談されることをお勧めします。薬は主治医の先生が患者さんに必要として処方されたわけですから、多剤だからと言って自己判断で中断することはもっと危険です。

自分の体調や薬に疑問を感じられた際は、現在の症状や自分の希望を主治医に告げて十分に相談されることが重要です。

やさしいハビロコーナー

作品づくりの意味

作業療法士 南部 加奈子

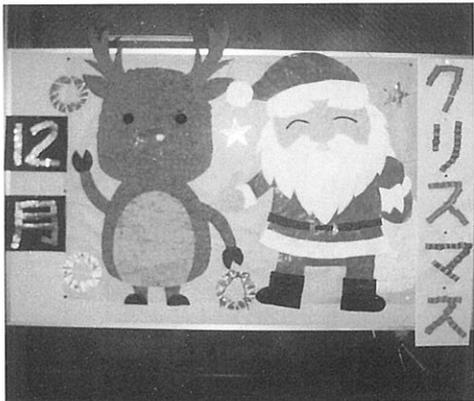
はじめに
作業療法士(OT)は、施設利用者の皆さんの作品づくりの手伝いをしてい...

(1)役割の再獲得

施設で長期入所している方は、家族や職員のお世話になるばかりだと、自分を...

(2)習慣の再獲得

絵を描くことが好きな利用者の方に



▲利用者の作業療法として仕上がりました

は、フロアや廊下に絵を飾り四季を描くことにより、季節が変わると、新しい作...

(3)自己効用感の向上
他の利用者や家族の方に「○○さんの作品上手やね」「キレイに仕上がったね」...

また、作品を日々作成していくうちに、「できることが増えた」「上手になってきた」...

(4)他の利用者に対する影響
作品に対する興味をひくために、他者に見える場所に作品を提示すると、「私も描いてみようかな」「これもリハビリなんですね」と、作品が他者の意欲をかきたてるきっかけになります。

その他、コミュニケーションのきっかけとなる場合や、フロアのケアスタッフが本人の能力に気づき、フロアでの作品

栄養デイケア 料理教室

第40回 片手でクッキング

〈メニュー 味噌シチュー・魚のマリネ・青菜のおかか和え〉

片麻痺の方を対象とした片手でクッキング。今回は、片麻痺以外の方も参加され、簡単な作業からす...

◇作り方

- ①じゃがいもは一口大に切り、水にさらして水気を切る。人参は乱切り、白菜は一口大のざく切りにする。②鍋を熱してサラダ油を入れ、豚肉を炒める。肉の色が変わってきたら、残りの野菜を加えてさらに炒める。③②にだし汁を入れ、煮立ったらあくを取り除き、フタをして野菜が柔らかくなるまで弱火で煮込み、火を止めて割り入れ、ルウを混ぜて溶かす。④③を再び火にかけ、とろみがつくまで弱火で煮込み、よく混ぜ合わせたAとグリーンピースを入れてひと煮立ちさせ、器に盛る。

【一口メモ】

味噌の栄養 味噌は原料の大豆を発酵熟成させたことにより、さらに多くのアミノ酸やビタミンを含む、優れた発酵食品です。

- 1 コレステロールの低下...大豆の油の効能
2 がん予防...大豆に含まれるイソフラボンの効能
3 老化防止...抗酸化作用のあるビタミンEの効能

味噌シチュー

◇材料 (4人分)

Table with 2 columns: Ingredient and Amount. Items include 豚コマ (160g), じゃがいも (中1個), 人参 (1/3本), 白菜 (120g), だし汁 (250cc), クリームシチューのルウ (40g), A { 牛乳 (120ml), 西京みそ (大さじ1), コショウ (少々), サラダ油 (小さじ2), グリーンピース (適量)}



づくりにつながる場合もあるかもしれません。
おわりに、障害や高齢等により喪失体験の多い利用者の方にとって、作品づくりは自分の価値感を新たに見つけ、自身自身の存在を肯定することが出来ると強く感じます。
そのため、失敗体験にならないよう注意が必要で、しっかりと身体・認知能力を考慮して作品づくりを提供していかなければなりません。今後とも、作品を作り終えた皆さんの良い笑顔を見て、私も元気をもらいがんばります。



▲作業療法士の音楽療法で「ふるさと」を歌う

八尾おわら「風の盆」

富山市八尾町に歌い継がれる「おわら」は、全国の民謡の中でも最も人気の高いものの一つである。九月一日から三日までの「風の盆」には、優美な艶やかな中にも一抹の哀愁を漂わせるおわら歌やおわら踊りが、坂の町八尾の各所で繰り広げられ、多くの民謡ファンや観光客を魅了している。



▲泉田幸夫 (写真愛好家)

おわらの「記憶」(桂書房)
おわらを語る会編

医療法人社団 誠林会

お知らせ

ほんごうハヤシ整形外科クリニックでは、旧来の所在地の林整形外科医院の内部を大改装し、平成三十一年一月四日より新たに業務を始めました。

これを機会に、地域の医療福祉に貢献するよう、一層努力する所存であります。

ほんごうハヤシ整形外科クリニック

高岡市美幸町一丁目一四五

TEL (〇七六六) 二七一八一



福田涂女子さんに聞く
色々なことに興味発見

毎週月、木、土曜日にデイケアに通所されている福田涂女子さん(88歳)にお話を伺いました。男2人女7人の兄弟で、にぎやかな家で育ったそうです。若い時は保険の外交員の仕事などをしたり、自宅に設置した機械でセーターなど編んだりして、指先が器用だったのその頃が一番楽しかった。2階にまだ機械があるので使えなくても懐かしいのでさわってみたいと話される。

ご主人とは恋愛結婚で、福田さんが当時通っていたダンスホールに、「毎日のように迎えにきて、猛アタックがあり一緒にになった」とのことです。昔は愛犬ハッピーの散歩を毎朝していたあの頃も、よかったですよ。

やすらぎの通所では、「だやい」が口ぐせですが、料理教室に参加されたり、余暇時間にパズルやぬり絵をしたり、色々なことに積極的に挑戦されています。

色々なことに、興味津々発見大好き福田さん。これからもお元気に通所してください。(八万幸恵)

社会に学ぶ14歳の挑戦

本年も「社会に学ぶ14歳の挑戦」に高陵中学校、志貴野中学校、五位中学校の生徒さんが実習に来所しました。どの生徒さんも、とても真面目で礼儀正しく真剣に取り組んでいました。礼状が届き、それには職員の方の笑顔が常にあること、職員の方のよいこと、そして利用者の方が、楽しんで話してくださるのと、とてもうれしく思いました。働く大切さを知り、この体験で、自分が成長できました。などと、寄せられました。生徒さんに拍手をおくりたいと思います。



(田中ひとみ)
(イラスト 水野)



戸出郁子さんに聞く
人の話を聞いてあげて

2階に入所しておられる戸出郁子さん(百歳)にお話を伺いました。嫁いだのは終戦前で、家業は銅器の原型を作っていて、主にお茶の釜花器、懸垂、香炉等作っていたそうです。若い頃は町内の国民年金の会計をしたり、近くの大本寺で尼子のお世話をされていた。毎月お参りの後のおときのご膳を作っていました。大仏様の前に立つと、心が穏やかになるそうです。

また、家で旦那さんの看病(介護)を7年されたそうですが、優しい旦那さんだったので、ひとつも苦にならなかったそうです。

やすらぎでは週に2回のリハビリと施設の日課に沿って生活しています。週に2、3回気の合う仲間とトランプをするのが楽しみです、と話してくださいました。

歩行器を使用し、転ばぬよう注意して歩いているそうですが、色々な人にちよっと一言声をかけたり、人の話もよく聞いてあげておられます。

戸出さん、これからも通所し元気に過ごしてください。

読書コーナー

◇「大人の道徳」(扶桑社新書) 齋藤孝著。生きづらいつ時代を生きる現代人に贈る先人たちの叡智。大人こそ道徳が。それは道徳=心+精神文化+身体文化(礼儀作法、書道、武道など)。人がなすべき生き方である。

◇「あの映画に、この鉄道」(キネマ旬報社) 川本三郎著。失われゆく全国の鉄道風景が、映画に甦る。富山県の地鉄運転手(三浦友和)が「愛を伝えられない大人たちへ」で美しい水田のなかを走る姿、チューリップ畑、背景に雪をかぶった立山連峰。「父ちゃんのボーが聞える」難病と闘う少女に、蒸気機車の機関士の父は「ボー」と病院にいらぬ娘を力づける汽笛。高岡でロケされた。JR水見線の雨晴を義経伝説とともに、富山湾、立山連峰の眺めで紹介。

◇「想いの軌跡」(新潮文庫) 塩野七生著。ローマから日本人への想い。日本は能力をもっている。そして昨日までは運にも恵まれてきた。だが」と。高坂正純は「文明が衰亡するとき」をなぜ論じたか。黒澤明監督へのファン・レター。フェリーニ作品二人の知性は長い間はげまされてくれた。

◇「こんぎつね」(岩波書店) 新美南吉著。小学校の定着。兵十の鏡で撃たれる結末。「こんはぐつたりと目をつぶったまま、うなずきました。最初「権狐はぐつたりなつたままうれしくなりました」と書いた。この本心を鮮明にしたかった南吉の優しさが原文に表われている。

編集後記

▼平成最後の年の瀬、明年の御代替りに伴い新しい元号が。天皇、皇后両陛下の国民と共に在りたいというやさしさと、ご苦労に感謝し、新しい時代の安寧と発展を誰かが願っている。▼世界情勢では、人道の問題を避け自国の利益を優先、経済上の争いがある。巻頭言で林会長は、その風潮の中で、日本人は絆、縁を大切に、恕(ゆるす)を重んじる礼儀正しい精神文化をもつ。▼平成が終わる、遠くの大正が急に懐かしくなる。大正は日本の小春日和の時代とうまく言った人がいる。大正ロマンと呼ばれる、音楽の世界では「赤い鳥」の児童雑誌で鈴木三重吉が主宰、西条八十、北原白秋らが童謡、唱歌「赤い靴」「故郷」「旅愁」など多く生んだ。やすらぎ利用者と一緒に歌うと、喜ばれ、「カチューシャの唄」「宵待草」も、と声がかかる。日本人の感性である。▼やすらぎ四季折々の行事、誕生会は季節感があふれ、ボランティアの演技に利用者の表情がゆるむ。日本人の共感し合う心情が伝わる。今年もやすらぎ祭の利用者、職員が一体となった楽器演奏、歌唱がすばらしく胸が熱くなる。▼シリーズ掲載、やさしいリハビリコーナーは、作業療法士の日々の活動について、利用者の自己効用感の向上で、元氣になつてもらいたい。長谷田施設長の健康シリーズは、やすらぎ広報紙で多くの人に読まれていて、日頃あまり考えない業害への警鐘である。原稿提出の職員、そして水野事務職の労に感謝。(炭谷)